

四万十町教育委員会会議録（令和6年9月定例会）

1. 日 時 令和6年9月3日（火）午前9：00～午前11：30

2. 場 所 四万十町役場本庁東庁舎 2階 町民活動支援室

3. 出席者

教育長 山脇光章

教育委員 横山順一 谷口和史 野中裕子 西谷史

事務局 教育次長 浜田章克

生涯学習課 課長 今西浩一 副課長 高瀬真也

学校教育課 課長 長森伸一 副課長 真城和也

研修指導員 森田美春

教育研究所 所長 野村泰子

4. 傍聴者

0名

5. 日 程

（1）開会

（2）教育長あいさつ

（3）会議録署名委員の指名 （西谷委員）

（4）議題

①議案第1号 令和5年度四万十町教育委員会の行政の執行状況の点検・評価について

②議案第2号 第2期四万十町教育振興基本計画について

③議案第3号 令和6年度教育委員会関係予算案（9月補正）について

（5）協議事項

なし

（6）報告事項

なし

（7）その他

①令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について

②保育所訪問について

③今後の日程について

6. 議 事

教育長： 皆さん、おはようございます。9月の定例会に出席いただきましてありがとうございます。ただ今より令和6年9月定例会を開催します。

教育長： 続いて、議案に移りたいと思います。「議案第1号 令和5年度四万十町教育委員会の行政の執行状況の点検・評価について」を議題といたします。事務局より説明をお願いします。

(教育次長より、「議案第1号令和5年度四万十町教育委員会の行政の執行状況の点検・評価について」、説明する。)

教育長 : ただ今、次長より説明がありました。送付させていただいた修正箇所もありますが、今日の段階の字句の修正だけ、確認をさせていただきます。今日、お配りした正誤表です。報告書の25ページの④豊かな心と体を育む教育の推進、1. 人権教育の充実、(1) いのちの学習推進の2ポツ目の事業の実施状況、成果の3行目、鍵かっこの、いのちの学習は自分の体やいのちの、いのちを漢字の命に修正。そして、29ページですけど、真ん中から下です。⑤児童生徒の安全確保の充実、1. 安全管理、(1) 学校施設の整備の2ポツ目の事業の実施状況、成果の3行目の右端のところ、洋式化の洋の字の漢字を修正。

32ページの学校適正配置推進事業、1ポツ目の事業の目的、目標の2行目の、「よりよい教育条件」の、「よい」と、40ページの町立保育所管理運営の2ポツ目の事業の実施状況成果の7行目の、「よりよい保育」、この、「よりよい」という「よい」を漢字に修正をさせていただいたということです。それと、45ページの一番下、下段、20歳の集いの5行目、旧友という漢字を学級の級に変更。そして、47ページの生涯学習拠点の活用、2ポツ目の事業の実施状況のところの3行目、「発信の拠点、また」とあるところを、「発信の拠点として」というふうに字句の修正をさせていただいています。

教育次長 : 横山委員から連絡をいただきまして、ありがとうございます。

教育長 : この間、横山委員から連絡いただいて修正もさせていただきました。これまで、報告書、資料については、前回も提示をさせていただきました。この形態、構成については3年目になります。また、来年度以降は教育振興基本計画が新たにできましたので、それも踏まえ、また構成については事務局でやりたいと思いますけど、令和5年度の事業の点検・評価について、一通り確認もさせていただいたと思いますが、何かございますでしょうか。自己評価のところ、先ほど次長も申し上げましたが、外国語教育推進事業と国際理解、それを一つにまとめて外国語の教育のほうは、さらに充実させていく必要もあるということで、そういう評価とさせていただいております。A L T、紹介したかね。

野中委員 : こういう人が来るよというのは聞いただけで、本人とかの紹介はされてないです。

長森学校教育課長 : 今日は学校へ行ったと思います。

教育長 : A L TとC I R、外国語教育については、小学校の5年生から教科となっております。まだまだ伸びしろがいっぱいあるということで、こういう評価にさせていただいています。ほか、何かお気付きの点等ありましたら。これが一応、令和5年度の教育委員会の事業の点検・評価の報告書、資料となります。よろしいでしょうか。

それでは、「議案第1号 令和5年度四万十町教育委員会の行政の執行状況の点検・評価について」、本日、お手元にある修正分も含め、この報告書、資料として取りまとめさせていただくことについて了承いただけますでしょうか。

全委員 : はい。

教育長 : なお、再度、最終を確認させていただいて軽微な変更があった場合は、事務局のほうに一任をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。なお、この

報告書、資料については、次長。

教育次長： 明日、開会の議会に朝一で議長宛てに提出をさせていただきます。合わせて本庁、それから地域振興局、大正、十和の閲覧所へ配備をする予定でございます。それが終わった後、あんまり時間を置かずにホームページへの公開をさせていただきます。このことについては広報でお知らせをするということにしております。

教育長： それでは続いて、「議案第2号第2期四万十町教育振興基本計画について」を議題といたします。事務局より提案理由の説明をお願いします。

(事務局より、「議案第2号第2期四万十町教育振興基本計画について」、説明する。)

教育長： ただ今、説明がありました。50ページのほうの修正もございます。軽微な修正も最終的に最後の校正もしなければなりませんけど。前回も、この基本計画については配付もさせていただき、また、横山委員からも意見を賜り、文言の題目のところ、修正もさせていただき、このように取りまとめました。これだと非常に分かりづらいです。概要版を作らないと、体系はまだできていないですね。

学校教育課長： 今、修正等をしていますので。

教育長： どういう体系か、簡単に分かるようなものを作って、説明のときには、全て、これで説明する時間ありませんので、ここでも本当は概要版で、こういう1章、2章、3章、こういう体系になっていますということ分かるように説明をしないといかんとところですけど、申し訳ございません。また、振興基本計画、この案をもって、向こう10年間、5年後に見直し、また、必要な場合は修正もしていきたいと思います。第2次の教育振興基本計画については、この案で取りまとめさせていただきたいという事務局案です。この計画案について何か。

横山委員： 今、字句の修正のこと出たので、まだ他にも字句、直したらいいのかなっていうところが何か所があるがですけど。23ページの上から5行目、トイレの洋式化、ここも直しておいたらいいのではないかなと思います。現状と課題の1行目です。それから、35ページの①で、十和村誌っていうのがありますが、村史を対象にしたんだったら、言偏に志じゃなくて、歴史の史じゃない、十和村史は。間違いかも分かりません。確かめてもらったら。それから、39ページの下から5行目、桜マラソンは平仮名でしたかね。漢字でどうでしょうか。字句で気が付いたところはそれぐらいです。

教育長： ありがとうございます。ほかは。

横山委員： それから、基本事業で目指す姿っていうのが、ずっと書かれています。目指す姿の記述が、大体、未来進行形的な書き方になっていると思いますけど、若干、他の数か所、別の形で書かれているところが何か所かあって、そこは会の中で何か出ませんでしたか。目指す姿、未来進行形になっていますとか、います、何々していますと書かれているじゃないですか、将来に向けての。他のところが。軽微なところで、例えば31ページの目指す姿、活発になっていますじゃなくて、活発になりますとか。これで全然、間違いではないと思いますけど、そろえたほうがいいのかな。35ページとか、継承されますって書いていますけど、されていますとか。ここは全然、間違いじゃないですけど。それと、成果指標のところ、38ページの巡回補導による補導件数って、これ、現状値で1人、1件とかにしたらどうなのかなっていうか。1人でも間違いはない、補導人数とかでしたら1人とかってなるかも分かりませんが。そ

れから、28ページに、学校運営協議会設置の小中学校割合とかっていうところ、この時点では現状値が87%、東又と興津の分がなかったので87とかってなっている。6年度から、ほとんど100%になる、向こう5年間は100%達成とかっていうことで、若干、他の指標とかっていうのが、ここへ入る指標は何かないのかなっていうか、あったらいいのになって思ったんですけど。もちろん、これ、5年度に策定していたので、こういうふうになっているとは思うんですけど、ほかに何か、部活動の地域移行の状況みたいなものとか何か、例えばです、ほかに何か指標があったらいいかなって。そういうとこです。

教育長： ありがとうございます。字句の修正も含め、先ほどの成果指標も、昨年度策定ですけど、だいぶ遅れた感もありますので、この中身についてはもう一度、事務局のほうで検討をお願いします。

教育次長： 字句の修正のところは再度、今のご意見を参考に訂正をしたいと思います。策定委員会の中でも案の内容は変えない範囲で、字句の修正については策定委員会の委員長のほうに一任をしていただいたということも確認をしていますので、進めさせていただきたいと思います。それから、指標についてですけど、委員、先ほど言われましたように、もう少しいい指標があればよかったというふうに思いますけど、なかなか部活動の数も動くということもあって、進捗状況を確認するために使える指標がなかったということで、安易に設置の校数を目標に持ってきたという状況があります。これについては、再検討するには策定委員会を開く必要がありますので、いったん、このまま置かしていただきたいと思います。

横山委員： それと、何ページから以降は指標のところの下に出典ですかね、資料、ほとんど書かれてないですけど、書けるようなところは書いたらどうかなと思います。何ページ以降やったろうか。前段の1とか、2以降ですかね。指標のところ、出典とか資料の出どころが分からないところがあって、もし、書けるものがあったら。あえて除けるのか、そこらあたり分からないので、そこが気の付いた点で。次長が言われたように、絶対、ここ直さないかんとか、僕が言ったのは気が付いたとこだけなので、絶対、直すべきじゃないかなってという強い意見じゃないのです。

浜田教育次長： 完全な誤字もありますので。

教育長： 貴重なご意見というか、詳細、丁寧に見ていただきありがとうございます。事務局のほうももう一度、再確認をしていきたいと思います。ほか、ございませんでしょうか。修正箇所の、字句の修正らも。成果資料については、先ほど次長が申しましたけど、策定委員会のほうで、あくまでも令和5年度策定という目標だったので、そのまま残した感があります。また今後、見直しの段階で違う成果指標、基準を探していきたいと思います。言葉の表現、字句の修正等もありますけど、今回の案、全体的なものとして、ここで承認をいただきたいと思います。なお、もう一度、事務局で確認させていただき、正式なものとして広報に努めたいと思います。事務局のほうからはないですか。先ほどの意見も踏まえ、表現、字句の修正等また検討をお願いします。よろしいですかね。課長、また、目指す姿の表現とか統一のところ、もう一度、検討していただきたい。

それでは、「議案第2号第2期四万十町教育振興基本計画について」は、事務局より提案、そして、先ほどの修正等も事務局に一任をしていただくということも踏まえ、この案で承認していただけますでしょうか。

全委員： はい。

教育長：ありがとうございます。

続きまして、「議案第3号令和6年度教育委員会関係予算案9月補正について」を議題といたします。事務局より提案理由の説明をお願いします。

(事務局より、「議案第3号令和6年度教育委員会関係予算案9月補正について」、説明する。)

教育長：教育委員会関係の9月補正予算案について説明させていただきました。毎年のことですが、4月の人事異動も含め、昨年度の予定した人員配置に基づいての人件費の見直し、それから組み換え等々があります。先ほど学校教育課長のほうから説明ありましたが、十川中学校の手前の橋、橋梁の改修に伴い機材等を十川中学校のグラウンドに置くため、フェンスの撤去とか、そういうもろもろの補償費として、いったん2,600何がしを受けて、今年の工事は400万ですけど、その残りは基金に積み立てて来年度以降また使っていこうということです。あの橋梁自体が何年かかるか、スケジュールは。

学校教育副課長：今のところ、令和10年ぐらいまでということで担当から聞いております。

教育長：校舎の改修等とも重なりますので、その辺も含め調整が必要な地域です。

横山委員：部活に支障はないところへ置きますかね。野球やるじゃないですか、人数、少ないですけど。

学校教育課長：部活は影響あるかもしれませんが、影響のないように使うほうも考慮はしてもらわないかと思いますが。

教育次長：特別教室から川沿いの橋側一画を工事用の資材置き場に使うということで、ライト側の一画になります。特別教室とフェンスの半分ぐらいを四角に閉じて使うという感じで、特別教室からフェンスの間の道側について、1年を通して工事をするようになります。水がないときにだけやるということなので、1年のうちで5か月ぐらいになるのかなと思います。

教育長：資器材等の数量とか大きさとか、まだ分かりませんが、その辺は学校活動や部活に支障が出る可能性もありますので、安全面は確認していかなと。

学校教育副課長：フェンスを撤去した後、代替フェンスを県のほうが配置していただくような形で、部活には影響及ぼさない範囲にはなろうかとは思いますが、そういう対応をしていただくような話にはなっています。

谷口委員：今あるフェンスを取り除くということ。

学校教育副課長：今あるフェンスを取り除いて。

谷口委員：その土地を貸して、最終的に工事が終わったらフェンスをまた県でやってくれるということ。

学校教育副課長：その費用を補償費で対応するということになります。

谷口委員：補償費が結構、高いわけか。

浜田教育次長：原状復帰までの金額で補償をしていますので。

谷口委員：令和10年に完成して、その後、フェンス工事をしたとして、物価高はどう考えているか。

学校教育課長：そこは今の計算でやっているということです。

谷口委員：それは困りますよね、値上がりしたら。

学校教育課長：ただ、今の補償の計算がそうになっているとしか、言えません。

谷口委員： 値上がりしたち、僕ら、賛成しますが。現時点での話か。そのときはそのときでまた考えますという話でもない。

学校教育副課長： 考えますという話ではないです。

学校教育課長： 今までは、そんなことはその金額でやれということです。ただ、そこも見込んだ金額になってはいると思いますけど。

谷口委員： 多少はね。もし、それ以上にやったら。

学校教育課長： それより収まっても返さなくて良いということ。

谷口委員： 逆に、それ以上になったら町は負担がかかるということ。

学校教育課長： それ以上になったら、収まるような工事を考えるかもしれないですけど。

教育長： 一定、補償については原状復旧の基本に基づいて算定して、これが何年先かという単価の上がりはどういう計算になっているか分かりませんが、こういう移転補償関係といえますか、支障物件のお金は入っていますので、公共施設で上がっていますが、やり直さんといかんとこはやり直さんといかん。以上が9月補正関係です。ほか、何かお気付きの点等ないですかね。今回は全体的に大きいものはございません。それで、明日の議会に上程をする予定としております。

それでは、「議案第3号令和6年度教育委員会関係予算案9月補正について」は、ただ今、提案理由の説明があった資料を原案として提出することについて、承認していただけますでしょうか。

全委員： はい。

教育長： ありがとうございます。

それでは、ここで10分まで休憩とします。

～小休～

教育長： それでは、休憩前に引き続き会議を開きます。

日程5「協議事項」、日程6「報告事項」について今日はございません。日程7、「その他」に移りたいと思います。「①令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について」を説明させていただきます。事務局、森田研修指導員のほうから説明をさせていただきます。お願いします。

(研修指導員より、その他 ①「令和6年度全国学力・学習状況調査の結果について」、説明する。)

教育長： ありがとうございます。四万十町の結果を報告、説明をさせていただきました。

今日、今年度4月にありました算数、国語、数学、国語の問題集もお手元に配付させていただきます。答えの配付はどうなりますか。

研修指導員： 後で配ります。

教育長： 小学校しかない。答えも。

研修指導員： 皆さんのところには配付してないので。両面で学校別の結果を示したものについてですが、教育長も言われたように、人数が少ないところにつきましては、1人の影響力がとっても高いということで、昨年度との比較が安易にできませんが、昨年度の調査結果が低かった学校、今年度、伸びているところもありました。中には50%台というところもありまして、少し気になる状態ではあります。同じように少人数で結果をしっかりと出している学校もありますので、個々に対応できるっていうところでは本町の良さだと思います。しっかりと結果をもとに分析考察をしてもらっていますので、

課題となっているところをしっかりと取り組んでいただき、また、力を付けて中学校へ送ってもらうというところをお願いしていくようにします。裏面の中学校につきましては、全体的に見ると昨年度より少し高くなっている状況です。学校によって国語、数学の差がある学校もありますので、小学校と同じく個々の力をしっかりと付けて送っていくというところを、中学校のほうにもやっていただきたいと考えています。

教育長： 学校別はまた参考としていただき、個々の成果と課題については学校自体が把握もしておりますので、簡易なミスも絶対あっていますし、つまづき等の点については担任も把握をして、次に繋げていっていただくようお願いもしています。授業改善に取り組んでいっていると思います。8月には県で全体の発表もありました。四万十町の分析をした結果は以上となりますが、何かご質問等あったらお願いします。

谷口委員： 中学校は3校ですね。小学校と比較すれば、仁井田から川口、東又までが窪川中学校の範囲に入りますよね。田野々と北ノ川が大正中、十川、昭和が十川中ということで、小学校のときにいいのに、中学校へ入るとだいぶ下がるような気がするの、どこの中学校も似たような傾向にあります、ここら辺はどう解釈すればよろしいのでしょうか。

研修指導員： 同じように私も思っているのですが、特段、何がってところが、はっきり分からないのが現状です。中学校のほうの授業がどうかこうかっていうのも、特段、自分も毎時間は見てないので分からないんですけど、学び方が小学校と中学校では差があるのかなというところで、小学校は割に一緒にグループで学習するものや個人で思考するものとか、授業によって形態はいろいろ工夫している授業が、よく見受けられます。それに対して中学校は、まだ割に教師主導型で、先生が板書したのをノートに静かに写したり、先生が投げ掛けたお題に手を挙げて答えるとかいうような授業が多く、まだ見られている状況ではあります。子どもたちが意欲的に学んでいるところも含め、授業がもちろん難しくなっているところもあると思うんですけど、毎日の授業の仕方ってところも少し、中学校に差があるのかなというところは見えていますが、そこが原因かと言われたら分からないんですけど。

谷口委員： 結局、中学校の指導に問題があるというわけでもない。

研修指導員：そこは、わからないところですが今、高知県としても中学校の授業の改革にすごく力を入れていまして、訪問回数とかも小学校に比べると中学校は多くて、1教科2回、必ず訪問、授業を見た後の協議ってところで指導していただいているようなところで、中学校の授業に県も力を注いでいる状況です。

教育研究所長： 私は、経験から言ったら、中学校の先生は専門性がすごく高くて、その教科、例えば数学でも英語でも、そこが突出している先生が多いわけじゃないですか。だから、それを具体化して指導するっていう、その先生にとってはすごくその教科は得意な教科であり分かっていること、だから、本当に分からない子どもの視点に立つてことが少し困難なのかなって思うところがあります。みんながみんな、そうじゃないと思うけど、専門性がすごくあるってことが中1ギャップを生んだりしていくのかな。例えば、指導するときに非常に難しい専門性のある言葉を使うと、小学校でも困難な子どもは、それが理解できなかったりするということを感じるのと、学習内容についても急に難しくなる。教科書でも字は小さくなる、教科書は厚くなるってところなんか子どもにとってはギャップを感じたりすると思うので、授業改善というか、例えば数学やっても、算数と数学は違うわけじゃなくて、数学の基本というのは算数にあるわけですので、そこへ繋げる授業、中1のときに、例えば加法、それ

から掛け算、割り算と違って、分数の計算にしても、ずっと、どんなことがあっても通分はせないかんとかってというような基本的なことをもう一回、中学校の数学の授業やるときに、もう一回、そこへ戻る、そうすることで違うってことを認識させない、数学と算数が違うってことを認識させないことが基本なのかなっていうことを久礼のほうで学びました。

谷口委員： 中学校へ入って、小学校とは違うということに対して、結局、先生が指導するときに、そこを丁寧に、入り口において子どもたちに説明不足、あるいは先生の専門性が高くなると、結局、そこは自己満足やと思います。

教育研究所長： 私はそんなふうに思ったり、横山先生なんか特に中学校の先生だったので、そこら辺、よく分かっていることやないかなと思うんですけど、そういうことを思った時期がありました。

谷口委員： 僕らも授業のことはあんまり分かんけど、スポーツにおいて考えたら、指導する人が結構、自己満足するわけよ。生徒がどうであろうが、自分の教え方に自己満足したら、その教え方でしか生徒を導かんわけよね。そこで先生と生徒の乖離が生まれてくるわけよ。それをどうなくするかといったら、先生が折れないかんわけよ。どう子どもたちに付き合うたら良いかということ、自分の自己満足の世界を追求するんじゃないで、子どもたちの満足度、あるいは楽しみというものに特化して考えて、指導していかないと、指導するっていう者は考えていかないかんよね。そこら辺で極端に悪くなるということは、入り口においてそこを丁寧に、入り口を開けてやるということが大事じゃないろうかと思うんですけど。

横山委員： 自分が主に中学校で教えたというたら5教科の中では社会科を教えたがですね。全国学力テストの点数を上げろと思ったら簡単です。簡単に上がります。けど、そういう授業ばかりはできないので、分からない子どもの指導というのが中学校になったらできにくくなる。部活が主になって、テストなんか返したときに、定着が不足してる子呼んで指導するっていうような時間が、なかなか取れないっていうか。それから、中学校になって授業以外で、家庭とか授業以外で生徒が努力する時間っていうのが、すごく不足しているのかな。だから、進路指導をもとに学級活動で家庭学習とか、そういう定着付けるための努力は必要ですよという内容の授業をずっとやりよったがですけど、なかなか中学校では、ぱって呼んで教えにくいっていうか、小学校みたいに集めてやるっていうのは、自分も小学校の経験はあるがやけど、なかなかそういうところでできにくい。あと、中学校になったら生徒の頑張りっていうところが不足しているのかな、っていうふうに思います。ほとんど宿題とか、小学校、丁寧ながですけど、中学校になると宿題の出し方とか課題の出し方と違って、今、探求もやって、授業について定着するような取り組みっていうのが、なかなかできにくいのが中学校ですね。できる子とできない子の差が広がってくるっていうか。

教育長： 毎年、結果は結果として、こういう数値で表れています。先ほどの資料の中で、同じ学年、同一集団の経年変化も見ていただいたと思いますけど、中学校に上がると同時に右肩下がりですけど、頑張ってやっていくケースに持っていけないと。先ほど森田先生も言いましたが、中央値の棒グラフの二極化といわれるところの全体的なところの分析もしたら分かりやすいかなと思いますけど、つまづきというか、理解度が進んでない児童生徒への対応に時間がかかっていくのが現実やと思います。中学校になると、中学1年のときが新しい雰囲気、中学校2年と慣れがあって、まだまだ次の目標が決めづらいところがあって、思春期の悩みの頃、3年生で、さあ、受験いうたと

きに遅かったっていう、そこら辺の環境といいますか、つくっていかないと、評価の観点もあろうかと思います。知識、技能の習得のみならず、主体的な学習の雰囲気づくりが学級でできるかどうかにも関わってくると思います。今後また、この結果は結果として、去年はもっと中学校が全国より下がって、これは中学校だけの問題ですか、課題ですかということも校長会でも申し上げましたが、中学校で余計、下がってしまったので、そこらも小中の接続。今度、十川は一緒の校区になります、小学校はもっと、より良い連携が取れるはずですので、この面についてもさらにアップが期待できるところもあります。窪中、大正中についても、学年によっていろいろあろうかと思いますが、そこはしっかり教科担任の先生方はお互いに協力もし、また、よく言われるのは、中部の教育事務所、今、てこ入れで入っていただいています。単元構想表をうまく活用して子どもの見取り、しっかり振り返りもできたかどうか確認できる視覚的なものも提示されて、授業改善もやっていただいております。その辺も含め、学校内でこれから進めていっていただきたいですが。ただ、若年教員も増えています。年配の教員もおれば、その中間層がいない年代もありますので、そこはうまくチーム学校で対応していただきたいという思いはありますけど、この件について何かご意見ないですかね。

横山委員： 県版学力テスト、あれ、小学校は返ってくるのが年度末でしたか。

研修指導員： 2月くらいじゃないかと思います。

横山委員： 小学校は、5年にやった県版学力テストの結果と同じような全国学力テストの状況になっていますね。読むこととか、それから記述式で解答するとか、県版では弱かったところが、全国でもそうですね。そこら辺が、ちょっと残念、克服できてないないっていうような。中学校は上がったので、びっくりしているんですけど。中学校は、県版でいうたら1年のときよりも2年が下がっていますね、毎年。2年生が終わって、すぐに全国学力テストがあるので、教育長も言われましたけど、そういう状況がありますね。

教育長： その時点の点数でしかないですけど、中身については重要な分析なりできる調査です。

西谷委員： 学校訪問をして、仁井田小学校とかもすごく熱心にやられよかったけど、学力テストって、中学校になったら1クラスの人数が増えて、知らん友達とかの中で自分の思いを言えれんまま3年間というふうに過ぎる子どももおると思うがです。小学校は、今のところ、一緒になってないところも多くて、少人数でも複式学級になったりするところもあるがですけど、先生が1人1人の家庭の状況も分かる中で、子どものその日の健康状態も分かる中で、勉強ができる6年間やと思います。分度器の使い方の勉強の部分だけを切り取ってはいかんがですけど、その状況やのにもったいない時間が過ぎんような、1人1人の心情って、見たら先生、分かると思うがですよね。この子がどんなところで今、困っているのか、その時間を長引かせんような授業とか生活を6年間することって中学校にも繋がると思うので、そうになったら、なんぼ知らん人の中でも大人数になっても、基礎って培われている部分が役立つと思うので。分度器の授業の後で、たまたま、その学年の子どもに会って、どう、学校、楽しい？って、聞いたら、先生も好きやと言った言葉に、とても救われて、先生との信頼関係ができてたんやなと思って、四万十町の少人数の複式やっても、そういうところ大事にしていけたら、生きていく基礎ができて、勉強の面白さも、もうちょっと分かるがじゃないかなと思いました。

分析するって、すごい大変やったと思いますが、掘り下げて、どういうところが苦手とかっていうことを可視化することで、こんなところが今の子どもたち、苦手ながやなということが、とても分かりやすかったので、ご苦労があったと思いますが、すごく参考になりました。ありがとうございました。

教育長：ありがとうございます。西谷委員の言われるように、とにかく授業も楽しくなければ子どもたちに良い影響も与えることはできませんが、それ以前に、中学校だけをターゲットにするのではなく、小学校、そして何より、今言われるのは幼児教育、保育活動の中で、どういった基盤づくりが必要なのか、それに対しては保育園と小学校の接続強化、そして小学校と中学校の連携接続が大事な面もありますので、今後も機会あるごとに、学校関係者、保育所も含め、話し合いの場、交流の場を積極的につくっていくように呼び掛けていきますので、西谷委員、特に保育園のほうのお力添えをよろしくをお願いします。

西谷委員：分かりました。楽しみにしています、保育所訪問。

教育長：ほか、全国学力テストの関係はよろしいですか。

谷口委員：今言うたように、極端にならんようにね。例えば、10点の差があるというの、せめて5点ぐらいとか。点数の問題じゃないけど、そうやって導いてやるのが、子どもにとっても全然違うと思います。そこら辺を一生懸命やってくれていると思うけど、結果、こういうふうに数字に出てくると、その数字を捉えて話すしかないの、実態は分からないですわね。そこら辺は忌憚のない話で言うたがですけど、なお、注意してもらったらありがたいですね。

教育長：なお、学校別については去年と比べたら10点以上も上がったたり下がったりしているところも、実際はあります。その下がった子をいかに押し上げていくか、求められていますので、今後、学校へ行く機会等々、学校訪問は来年度になるかも分かりませんが、今度、保育所訪問がありますので、是非、この子らが、これを受けるときにはその辺を目指していければいいか、というところも見ていただきたいと思います。それでは、以上で令和6年度全国学力・学習状況調査結果についての説明を終了します。ありがとうございました。

研修指導員：ありがとうございました。後ほど、解答のコピーをお配りします。

教育長：続きまして、保育所訪問にいきたいと思います。合わせて、今後の日程も関係します。保育所等の訪問の件について説明をお願いします。

(事務局より、その他 ②保育所訪問について、説明する。)

教育長：保育所訪問については、9月17日から9月27日までの5日間については決定ですので、この日程表でよろしく願いをいたします。何かありましたら、前日、当日、また電話いただきたいと思いますので、この予定でよろしいでしょうか。

横山委員：保育所訪問までに前もって資料もらえたらいいんですけど。

生涯学習課長：保育児童数、最新のものです。

教育長：学校らでも学級数、担任とかその一覧の資料と保育所要覧的なものは当日で。

生涯学習課長：保育所要覧みたいなものがありますか。

教育長：あったら事前に、学校へ行くにもあればね。

生涯学習課長：事前に配付する資料については、最新の園ごとの児童数と職員の配置のものを事前に送ることと、保育所要覧的なものがあるか、ないのかが分からないけれども、

保育所ごとの状況が分かるような資料があるやったらそれを事前に。

教育長： 事前に、一覧はもちろん、確認もして配付をお願いします。

生涯学習副課長： 訪問までに資料を準備します。

教育長： 全部、お昼までという行程なので、子育て支援センターや補導センター、研究所、B&G について、お昼までに寄れるところとかあればね。そこ、調整をお願いします。各所管の教育関係の施設の訪問というところなので。

教育研究所長： 毎年でなくても、かまんかなと思いますけど、全然大丈夫なので。

教育長： 毎年でなくてもかまいません。今回は学校のほうは給食を学校でいただいたし。ということで、保育所訪問については以上になります。よろしいでしょうか。また事前の資料の配布をお願いします。

教育長： それでは、次へ移る前に、新しく 8 月に C I R、国際交流員として来ていただいたクリスタさんをご紹介します。

生涯学習課担当： 失礼します。8 月 4 日まで国際交流員を務めていたワード・アイリーンさんが任期満了に伴い任務を終えたので、後任に新しくクリスタさんが来られましたので、一言、ごあいさつをさせてください。

クリスタ： おはようございます。ニュージーランドから来ました、クリスタと申します。8 月から国際交流員の仕事を務めさせていただくことになりまして、四万十町の皆さんとたくさんの交流をするのを楽しみにしています。家族 5 人でニュージーランドから来ました。子どもたちも皆さんにお世話になりますので、よろしくお願いします。

教育長： よろしくをお願いします。ありがとうございました。

学校教育課長： A L T については、今日から学校のほうに出勤しておりまして、今、事務所におりません。広報で紹介するようにしておりますが、イギリスから男性 2 名の方が来ています。お名前はアイザックとチャーリーになります。年齢は 21 歳ということです。

教育長： 広報でもお知らせし、ケーブルでも出ますので、また学校とか保育所とかいろいろ回って、国際交流、英語教育の推進に携わってもらいます。それでは、明日からの議会の一般質問の通告書を参考にお配りしています。これについて、事務局より説明をお願いします。

(事務局より、9 月議会一般質問について、説明する。)

教育長： 一般質問については来週、火曜日からですので、また何かお気づきの点があったら、ご連絡いただければと思います。ほか、何かございませんでしょうか。

それでは、以上をもちまして、本日の教育委員会定例会を閉会いたします。お疲れ様でした。

(閉会)

教育長 : _____

署名人 : _____